

## 現地支援に全力！地域に根ざした民医連の医療を実感！

支援期間 4月24日—27日

京都民医連第二中央病院看護師菅田香織

私が支援に入ったのは坂総合病院を中心に避難所訪問や健康相談会の参加であった。津波の被害があった地域は道路の脇に瓦礫やごみがあったり、土地の広いところにはとてつと集めたという感じ。セキ浜など海辺は遠くから見たらもともと更地だったかと思うほど平らな状態。しかし、近くまで行くと家の基礎や玄関の階段と思われるものが残っているという状態でした。タクシーの運転手さんからも被災時のお話を聞くことができました。多賀城文化センターでは750名ほどが非難しているが、昼間は300名ほどしかおられない。動ける人たちは家の片付けや仕事に出かけているや役所などに行く人が徐々に増えている。全体的に重度の介助が必要な方は殆どおられなかったが、歩行には杖が必要であったり、ADLは基本的には自立しているが麻痺がある方だったり、車椅子の家族を介護している方など昼間に残っているのは高齢者がほとんどという状況。ここでは、医療班による、健康相談・診察・回診、看護師を含むそのほかの職種による足浴班に分かれて支援を行なった。健康相談に来られる方の中には高齢者や精神疾患がベースにあったり、精神的に不安をかかえておられ、安心を求めてこられる方が数名おられた。特に医師の診察を行っていない方もあり、健康相談に来て話すこと聞いてもらうこと事態がその方たちへの援助で安心を与えることにつながっていると感じた。実際に話を聞いていると「坂病院には前から世話になっている、みんなやさしい。このピンクの服を着ていつも来てくれている」と話され、地域に根ざした医療を実践している民医連を感じることが出来た。実際に現地に生かしていただき、被災地を見て震災当初テレビで見たような状態から道が開けたり、家が片付いていたり一見状況は良くなっているように見えるが、瓦礫をどうするのか、片付けたもののその後家をどうするのか、どこで生活するのか、目途のたたない問題が沢山あると感じた。<左京連帯ひろば支援のつどいで報告を要約しました。>



左京連帯ひろば支援のつどいで報告する天羽さん

### 左京連帯ひろば 東日本大震災支援のつどい

4/30 午後 70名の参加で開催！

民医連、新婦人、地区労、社保協など地域の諸団体がそれぞれの支援活動を交流し、この左京区で自分たちに何が出来るかを考え、今後も一緒に長期的な支援を続けられる出発点にしようと企画されました。現地支援に行った民医連の医師・看護師・事務から被災地の現状と支援の内容、国や自治体の政治の役割など口々に報告されました。新婦人左京支部のキャンパ活動などの取り組み、加藤市議員から京都市の被災者受け入れや現地支援の状況が報告されました。最後に、被災地支援に全力をあげると共に、復興財源として消費税の増税などの企みを許さないたたかいを広げることを確認し、予定時間を1時間近く越えて終了しました。

今日はお疲れさまでした。終わった後、友の会の役員さんから被災者が北白川で1人、養正で1人おられるとの話がありました。もう少し情報を収集してみるとのことでした。それから、回覧板で呼び掛けるなどが必要ではと意見をもらいました。とても有意義な取り組みでした。ありがとうございました。

左京連帯ひろばの集会後、加藤市議員よりメールをいただきました。

### こころをひとつに

#### 【支援予定者】

宮川医師 (5/12-15) 岡崎看護師 (5/14-17) 市田看護師 (5/16-19)  
後藤医師・山内看護師 (5/18-21) 澤田事務 (5/18-21) 外山事務 (5/19-22)